

## はじめに

平成 18 年 8 月 31 日、9 月 1 日と、山形市・山形県庁で第 15 回地域がん登録全国協議会総会研究会ならびに実務者研修会をお世話させていただき、無事終了いたしましたことをご報告申し上げます。8 月 31 日の実務者研修会には 115 名、9 月 1 日の総会研究会には 140 名の方々の参加を賜り、心から御礼を申し上げます。出来るだけ行政主導の地域がん登録事業の実施を、との思いから会場は県庁とし、会場の設営や運営にも多くの県職員の応援を得て、無事に開催することができました。

今回の研究会では「がん対策におけるがん登録の役割」をテーマとして、がん対策において精度の高いがん登録が不可欠であることを、実際にご報告に用いられた例を通してご紹介する内容にいたしました。

シンポジウムは、「がん対策におけるがん登録の意義・役割」とし、「疫学研究への利用と成果の還元」(西野善一先生・宮城県立がんセンター)、「拠点病院を中心とするがん医療体制の企画」(森脇 俊先生・大阪府健康福祉部)、「地理情報と地域がん登録資料を用いたがん罹患モニタリングの現状」(三上春夫先生・千葉県立がんセンター)、「がん検診の精度管理」(笠井英夫先生・岡山県医師会)のご講演をいただきました。がん対策上、地域がん登録が必要不可欠なものであることの確認ができました。

特別講演として国立がんセンターの祖父江友孝先生に「国家戦略としてのがん対策とがん登録の役割」についてご講演をいただきました。今後のわが国におけるがん対策の方針と、その中での地域がん登録の果たすべき役割をご教示いただきました。

ポスター演題は 10 題の応募があり、その中から国立がんセンター丸亀知美先生の「1993-2001 年地域がん登録データによる小児がんの集計」が最優秀賞に選ばれました。会場の都合もあり講演会場の壁面に展示いたしました。後述の市民公開講座に集った市民の眼にも触れましたので、市民向けのポスターがあっても良かったかなとも思われました。

また、総会研究会初の試みとして、地域がん登録事業の意義を市民の皆様に周知する目的で市民公開講座を開催いたしました。会場の広さと時間的な制約もありましたが、87 名の市民、メディアの参加をいただくことができました。テーマは「がん医療は進んでいるのかーがん対策におけるがん登録の役割ー」としました。会の冒頭には、座長の労をおとりいただきました神奈川県立がんセンターの岡本直幸先生から本協議会から一般市民に地域がん登録事業を啓発するための「声明文」を朗読していただき、公開講座の終盤でも大島 明理事長から声明文の表明をいただきました。メディアによる紹介もあり、所期の目的を達したと思われ、今後も積極的に市民に対するアピールが必要であると思われました。

本モノグラフは、これらを取りまとめたものであります。

平成19年4月のがん対策基本法の施行に向けて、地域がん登録全国協議会として「私たちは「地域がん登録」制度の確立に努めますーがん登録はがん対策の羅針盤ですー」との声明文を作成し、市民、国に対する本協議会としての考えをアピールし、様々なメディアにも取り上げていただきました。地域がん登録事業にとって意義のある会となったと思います。ご司会を頂いた先生方、講師の先生方に改めて御礼申し上げます。わが国の地域がん登録にとって力強い一歩の会であったなら幸いです。

(松田 徹)